

第43回「議員と語りかい」報告書

総務環境常任委員会 (No.1)

開催日	令和 5年 10月 31日 14時 00分 ~ 15時 30分		
開催場所	議会棟4階 第3・4委員会室		
団体名	きりしまにほんごきょうしつ	参加人員	6人 (男 4人:女 2人)
出席議員	宮田 竜二、今吉 直樹、松下 太葵、藤田 直仁、松枝 正浩、 前島 広紀、有村 隆志、仮屋 国治、宮内 博		
役割分担	班 長 (宮田 竜二) 副班長 (今吉 直樹) 記録係 (前島 広紀)		
テーマ及び具体的な内容	多文化共生のまちづくりに関して 本日の具体的内容 ①体制づくりに関する提案 ②きりしまにほんごきょうしつの活動紹介 ③今後の連携や各課題の横断的な対応 ④多文化共生に関する市民へのアンケート調査		

意見交換の主な話題等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆私たちから歩み寄るために、多文化共生に関するプランを策定する。やさしい日本語の普及、文書や案内を多言語化する。日本語サポーターを養成し活用し、外国人支援を理解し、積極的に関わる人材を増やす。宮崎県には地域日本語教育コーディネーターが5名いるが、鹿児島県にはいない。霧島市が設置すると大きいアピールになる。
	◆今後の展開に向けて検討が必要なこと。ハラールレストランの情報や、技能実習生は移動手段に困っているので、市内すべての地区の公民館などで交流できるようにしたい。また、オンライン開催など開催場所の多様化や、若い世代の参加を促すために、託児ボランティアの依頼・和室の確保も検討したい。
	◆新規で開始する計画段階のものとして、多文化共生に関する子供向け講座(小・中学校・高校への出前講座)、企業や自治体などの研修(外国籍従業員対応をしている担当者の研修)、企業同士のネットワークの構築、霧島市との連携などを考えている。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な話題等

◆霧島市の多文化共生に関する施策を知らないというのが多かった。どのような施策やサービスが必要かについては、①自治会に対する研修事業（わかりやすい日本語や異文化理解等）、②成人向け・児童学生向けの日本語を学習する機会、企業の日本人職員に対する研修事業、③在留外国人との交流・イベントなどの意見があった。

◇カンパセーションナイトにおいて、テキストなど特になくということだが、具体的なテーマやその内容はどうか。

◆テーマを絶対決めない。テーマを決めるとそのテーマに興味のない人は来なくなる。それで、そのテーブルに着いた時、その場で日本語で会話が展開していく。それを体験してもらうのがこの活動のメインである。

各テーブルにはサポーターがおり、参加しているみんなも聞く姿勢でいるので、たとえ下手な日本語で詰まったとしても、何々って言いたかったのかと待つ姿勢があり、ここにいることがポジティブに働く空間にしたい。

◇カンパセーションナイトは、出入りも自由で予約も必要ないとのことであるが、1回あたり何人の方が参加しているか、くり返し参加する方がいるのか。

◆繁忙期があるので仕事が落ち着いてからやってくる実習生もいる。交通手段が乏しいので誰かに頼んで連れてきてもらうのが難しい。最近では20人を切ることが多かったが30人くらいの参加もある。広報として、公式LINEとフェイスブックとチラシを配布している。

◇英語などいろいろな言葉が飛び交うと思うがそこはどのように運営しているのか。

◆いろいろな言葉に対応しないといけないと思われるが、全員日本語で理解するように説明している。

◇行政と市民団体の方々が共に進めていく事業の最先端を行かれていると感じる。その中で役所の中での横断的な仕組みづくりが必要であるとのこと、いちき串木野市の事例が紹介されているが、状況が円滑に進んでいるのか。

◆いちき串木野市は、この多文化共生推進プランを掲げた後、今年度から来年度には日本語教室と日本文化教室を開講する計画で、委託先を募集している。逆に霧島市は私たちがやりましょうと提案しているところである。協会が直営ではなく、専門家にお願いし

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

て、日本語と文化を理解する教室にしている。また、推進プランを作るにあたって、留学生が一人入っていることはさすがだと思う。

◆我々の協会で来年ボーリング大会を計画している。また、霧島市国際交流協会が今年12月3日に、神社巡りツアーを計画している。今後外国人同士のそういう交流の場をもう少し増やしてほしいという思いがある。

◇文化財めぐりというのは教育委員会の社会教育課が日本人向けに行っている。外国人に特化しておこなうことはこれまでなかった。外国人との多文化を意識すれば、外国籍の方々の過ごしやすい環境を整えたうえで開催することができるのではないかと。

意見交換での主な話題等

◆文化庁が「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業として、地方公共団体に地域日本語教育スタートアッププログラムという補助金を出している。霧島市もこの活用を検討してほしい。

◇国の補助事業は知らなかったが、令和5年度市民活動推進支援事業で「きりしまにほんごきょうしつ」に30万円の補助金が予算化されている。

◇今後の連携や各課横断的な対応について、現実に行行政と協議が進んでいるものがあるか。

◆人権啓発センターとの協議では、人権啓発センターを活用できなければ外国人向け講座はできないとのことで、交通手段がない外国人にはきびしいとのこと。

社会教育課に公民館講座について聞いたら、基本的に講師が登録制でこんな講座が出来ますと登録したうえで、その講座にニーズがあるか短期開催してみても人数が集まれば定期講座にランクアップされるとのこと、私が講座をやりたいからといってやらせてもらえるものではなかった。

国際交流協会では、日本語サポーター養成講座をしたいのでということで実現したが、行く先々で各課横断はなかなか難しいと感じている。

◇外国人籍住民の方の交通手段がいつも困っているとのこと、令和5年11月から時刻表や決まった運行路線がない予約型の乗り合いバス「きりしまMワゴン」の運行が始まります。現在のアプリは日本語しか使えないようなので、今後の研究課題とさせていただきたい。